



青木村子どもはつらつネットワーク通信

平成28年度 第137号 2月1日

青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行

子育てフォーラム青木2016

昨年11月26日(土)に行われた子育てフォーラムでの分科会の様子をお伝えします。



第1分科会

「子育ての達人にないましょう」

～自己肯定感を育てることを通して～

(子育て委員会)

子育て委員会では、保小中一貫の子育てアンケートをもとに、「幸せを感じる時(プチハッピー)はどんな時か」のテーブルと、「保育園・小学校低学年の子育ての悩み」のテーブル、



「小学校高学年・中学校の子育ての悩み」のテーブルの3つに分かれて話し合いをしました。残念ながら、各テーブルにはフォーラムに参加した父兄は少なめでしたが、委員会や村民の方々と短い時間の中で、青木村の子育てに対する愛情交換を実感できる内容となりましたので、少しですがご紹介します。

「幸せ」テーブルでは、日頃自分の感じた幸せ等を発表し、和やかな笑顔のあふれるひとときとなりました。

「保育園・小学校低学年の子育ての悩み」テーブルで出された悩みと解決策

- ゆっくり過ごす時間が少ないこと。
- 最近、親がテレビやスマホを見ながら子どもと接する姿が見受けられる。
- 大人も子どもも時代の流れで辞書を使わずスマホ等に頼ってしまい、漢字を覚える機



会が少ない。

- 子どもの宿題の音読の必要性について。
- 日記の宿題が出て何も書く内容が無い時はどうしたら良いか。
- 村の中で相談できる場所がもっとできたら良い。
- 人生の先輩であるお年寄りをお願い

いできることはしてもらい、子育てを乗り切ってみてはどうか。

- 生活の送り方について、前日に時間の計画や予定をたてたり、5分10分のスキマ時間を大切に使ったりすることで、同じ時間が充実したものになる。

「高学年・中学生の子育ての悩み」テーブルで出された悩み

- 進路を決めることについてはっきりしていない場合、親は子にどんなアドバイスをしたらよいのか。
- なにげない親の一言で、子どもの進むべき道が開ける。
- メディアについては、スマホやゲーム等、時間を決めないでだらだらしてしまうこと。
- 学習場所はリビングと勉強部屋ではどちらが良いか！？
- 思春期の娘と父親との距離の悩み。
- 不登校になりそうな時の対応。



第2分科会

「小中連携の様子と親子で楽しむ能力アップ」

(小中連携委員会)

1 主な活動 (司会者：小林登志先生)

- (1) 中学校教師による、小学校6年生への理科の授業
- (2) 中学校文化祭「こまゆみ祭」の見学
- (3) 一日体験入学及び、部活見学(1/27 予定)
- (4) 中学校職員による6学年授業参観



2 「花まる学習会」を体験してみましょう (提案者：藤原朱美先生)

(1)花まる授業説明(花まる学習会：前原先生)

(2)花まる授業体験(大場先生・新井先生)

参加者全員で子どもたちと同じ教具を使い、同じ問題・課題に挑戦する。

①Iキューブ…積み上げ最高27段(歓声が上がる・拍手)

②たこマン…一つの絵を見て続きを想像する。答えのない問題、ユニークな回答

③アルゴ…カードゲーム(真剣な表情・論理的な説明に大きな拍手)

④ナンバーリンク

⑤スクエアパズル

「できたっ!」「くやしい!」といった声。

3 中学校での取り組み (提案者：小林登志先生)

- ・高校入試では、多様な解き方や説明の仕方が求められる。
- ・そこで「頭の体操」的な問題を廊下に掲示した。
- ・家庭でできるパズルの紹介、パソコンのパズルサイトの紹介
- ・小学校での楽しい(学習)体験を中学校でも、また、家庭にもつながるように親子で取り組んでもらいたい。



4 参加者による感想発表

- ・認知症にならないように、パソコンゲームなどをやっているが、今日体験したことで、自分がやっていることをこれからも堂々とできるような気がした。
- ・子どもたちにすすめたい。
- ・花まる先生の指導がハッキリしていてすごい! 元気がある。
- ・普段の学習では、とかくできる子から分からない子へ一方通行の学習になりがちだが、(今日、紹介された)学習は、ひらめきなどがあり、すばらしかった。
- ・みんなが自然に学び合いができる教材。子どもが真剣に取り組みたくなる気持ちがよくわかった。



「毎日の子育て 楽しめていますか？」

～皆さんで井戸端会議をしましょう～

(保小連携委員会)

1、今年度の活動内容の報告

- ① 6月 小学校音楽会
- ② 9月 小学校運動会
- ③ 10月 一年生との交流

・保育園（年長組）、小学校（一年生）の当日までのそれぞれの取り組みと、そのときの気持ちや姿、当日の子どもたちの様子や心境

2、成果と課題についての発表（保育園、小学校）

これらをもとに参加者の方々からの感想、日頃のお子さんの様子やわが子の自慢話、また小学校就学にあたって心配なことや不安なことについて、インシデントプロセス法を活用し、少人数グループでの意見や情報交換がなされました。

・《わが子自慢》

誰とでもすぐ仲良くなれる、挨拶が自然とできる（地域の方にも）、自分から進んでお手伝いをしてくれる、小さい子の面倒見が良いなど、人との関わりの面でのわが子自慢がたくさんありました。

・《子どもの理想像と今、困っていること等》

「子どもを褒めて育てたい」、
「なかなか手伝いをしてくれない」などという意見もある中、多数だったのが、「親の言うことを聞いてくれ



ない」、「ゲームの時間が守れない」という意見でした。この2つに焦点をあて、話し合いをしたところ、「家ではずっとテレビがつけばなしの状態であったり、携帯電話やゲーム機の制限が難しい」、「取り上げると怒る」、「（本当は与えたくないが）子どもに言われゲーム機を買おうか、買わないか、迷

っている」、「ゲームをやっていると親の問いかけに返事をしない」という意見がありました。「ゲームを与えるときには子どもとしっかり時間を決めてできるように約束をしている」、「『〇〇をします、もし守れなかったときは△△します』という誓約書を子どもと一緒に考えたりした」、「ゲームだけになってしまわないようになるべく外出をするようにしている」など、様々な工夫をされているご家庭があったり、中には「家にテレビがないため、子どもも親もテレビを見ないのが習慣になっていて、子どもが自分で遊びを見つける」というご家庭もありました。

(世話係より助言)

今回は「時間」「ゲーム」をテーマに話し合いを行ったが、ゲームは「すぐにきれる」などといった禁断症状が出てしまうこともあるので、これからの課題でもあると思う。

「わが子自慢」で子どもの良い面もたくさんある。その良い面を伸ばしていただけるように、保護者が気楽に話し合いのできる、井戸端会議ができる場をこれからも作っていく必要がある。



第4分科会

「わが子の心に寄り添うために

～その行動には、わけがある～

(特別支援教育委員会)

1. 【講義】その行動には、わけがある（ABC分析から）… 植田 SC（村教委）
 - 行動とはどんなことだと思うか。←死んでいる人にはできないこと。

- 行動とはどんなことかクイズ形式で出題した。

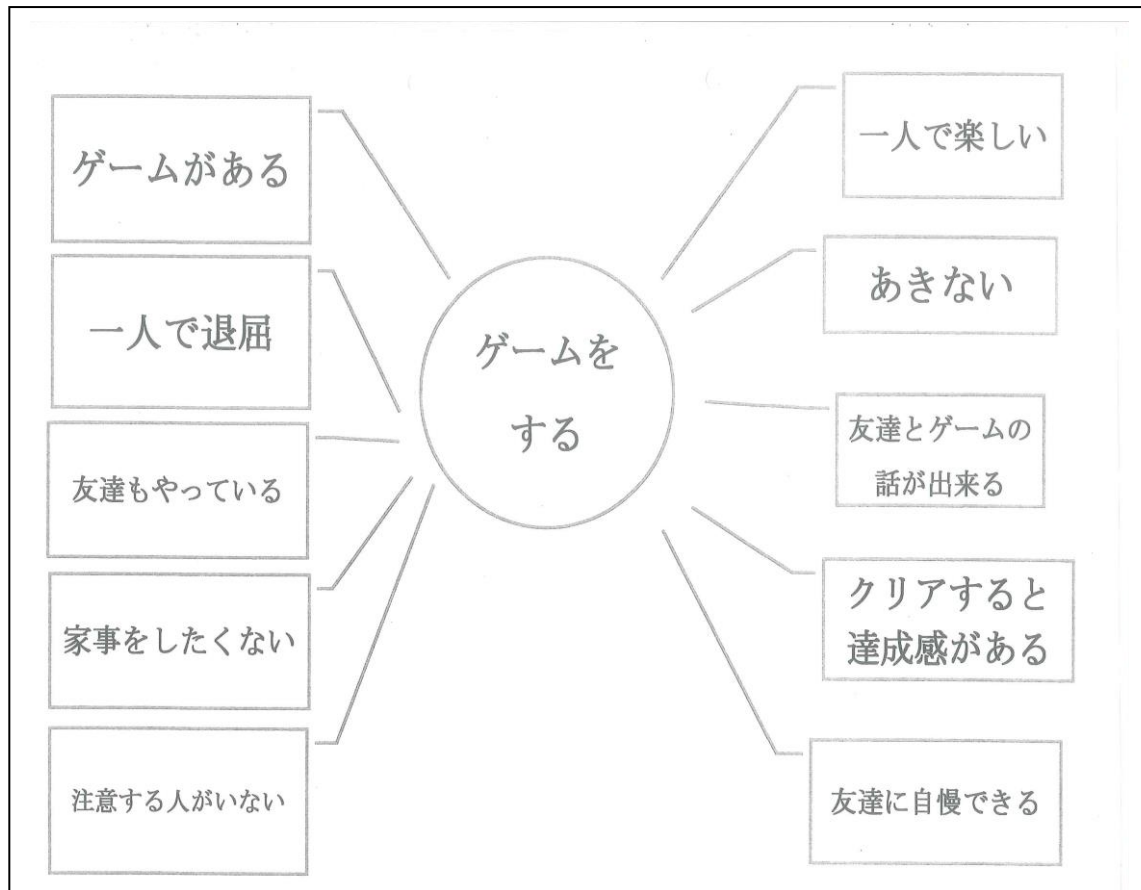
- ① 呼吸をする、
は行動であるか。→行動である。
- ② 横たわっている。→行動ではない。
- ③ 走らない。→
〇〇しないは行動ではない。



・ABC分析とは・・・A→〇〇の時、行動のきっかけ。 B→行動する。
C→結果。

きっかけ (A) と結果 (C) はたくさんある。

2. 【演習】植田 SC より (私がゲームをする理由・行動)



・まずゲームがある。一人暮らしで退屈。同じゲームをしている仲間がいる。家事をしたくないことも一つの要因。いちばんは、誰にも注意されず、自由である。飽きない。友だちに自慢できる。

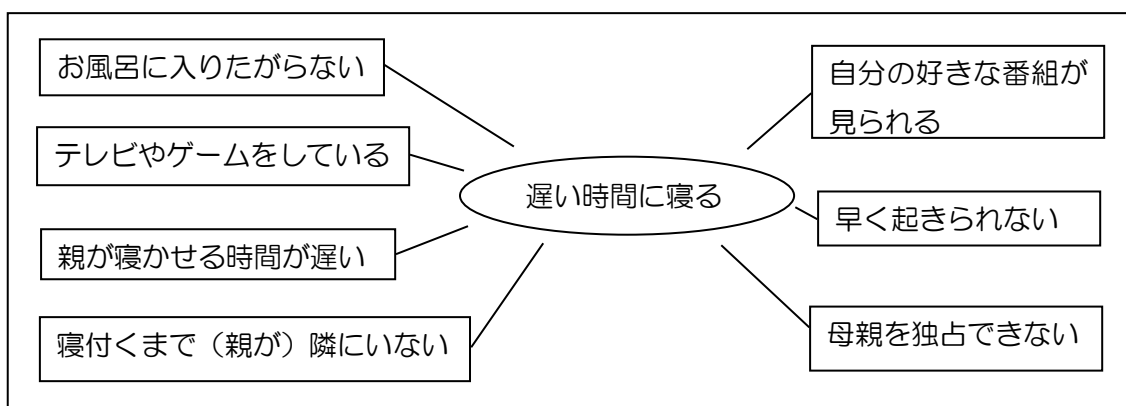
補足 (教育長)

・ABC分析をすることで、いくつかの視点で子どもを見ることができる。
・植田SCの上司としてゲームをする植田SCにゲームをやりすぎると仕事に支障が出る場合もある。

介入できることと、できないことがある。

介入できる場所として一人で退屈しているなら仲間と遊びに行く、食事に誘うなど。

- ギャンブルにはまってしまう人を例として、なぜはまるかという、時々当たるからやめることが難しい。



(植田SCより)

- 上記のことを直すのは難しい。なぜなら、本人にとって良い環境であるから。たくさん兄弟がいる中で母親独占できるから。
- 手立てとしては、母親と一緒に風呂に入る→その時間は(母親)を独占できる。母親と一緒にいる時間を増やす。大変だと思うが(子ども)早く起きて、一緒にゲームをしてあげる。

まとめ(吉澤校長先生)

- 心の中でいろいろ方法を考えることが大切。
- あいさつにたとえば、私たちはあいさつしない子どもにあいさつをさせようと思ってしまう。
- 他の方法や、言い方を考える。
- まわりの大人が変わらなければ、子どもは変わらない。



編集後記

分科会では、子育て真っ最中の保護者の方や学校で子どもたちの様子を見てくださいしている先生方、子育ての先輩である地域の方など、立場の異なる人同士がざっくばらんに話し合うことができ、有意義な時間になったようです。「あおきっ子応援団」の方々の飲み物のおもてなしも大変好評でした。次回のフォーラムでも、親子で楽しく参加して、子育てを見つめなおす一日になればいいですね。

